「共有・協働・共感」し合う校内研修を目指して

福島市立三河台小学校
教諭　野口　卓也

１　はじめに

本校に勤務していた若手のＡ先生が，職員室の雑談でこんな話をしていた。

> **同僚の先生**：Ａ先生って最近，事後研究会で自分の見取った子どもの姿をたくさんしゃべるよね。
> **野口**：たしかに！何か自分の中で変わったことがあるのですか。
> **Ａ先生**：三河台小学校に来る前は，校内研修への参加にものすごく消極的でした。でも，最近はどういう視点で子どもを見取ればよいかが分かってきたし，研修全体会や事後研究会で自分も意見を言えるようになり，研修が愉しいと思えるようになってきました。
> **野口**：なるほど～！研修主任としてありがたいお言葉です！
> **同僚の先生**：たしかに，先生たちが同じ方向を向いて研究できている感じがするよね。

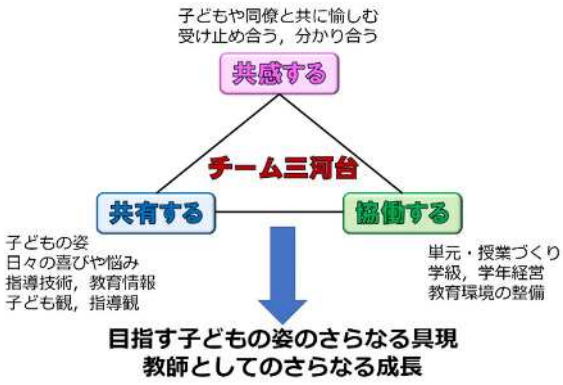
この話を聞いた時，本校の校内研修が，Ａ先生にとって価値あるものになっていることを感じた。それと同時に，同僚の先生も校内研修のよさを見つけてくれていて，大変ありがたかった。では，どうしてＡ先生はじめ，本校の先生方は校内研修に積極的に取り組んでいるのだろうか。その理由について，研修主任の立場から自分なりに振り返ってみたい。

２　現在の三河台小学校の様子から

本校は，理科・生活科を中心に研究を推進してきた伝統がある。最近では「低学年の経験がなく，生活科をどのように進めていけばよいのか分からなくて…」「三河台小学校に来るまで，理科を担当したことがない」といった教員も少なくない。そこで，次のようなことを大切にして，校内研修を推進してきた。

前述したＡ先生のように，教員一人一人が校内研修に愉しく取り組めるようにするために，右図のように「チーム三河台」を合言葉にして教員間の結束力を高め，「共有・協働・共感」することを大切にして校内研修を推進することにした。

また，本校は「学びを構築する子どもの育成」を研究主題として，理科・生活科を中心に研究を進めてきた。「学びを構築する子ども」の具体的な４つの姿として，次のように設定した。



〈校内研修の基本理念〉

> ① 自ら問題を見いだし，解決の見通しをもつ姿
> ② 試行錯誤を通して，対象に繰り返しかかわりながら，考えや方法をよりよいものにする姿
> ③ 事実や体験，友達とのかかわりを基に，自分なりの考えを創り上げる姿
> ④ 学ぶ前後の自分の変容を自覚し，次の学びにつなげようとする姿

この４つの具体的な姿を全教員で共通理解して授業実践に取り組むことで，授業の中で同じまなざしで子どもの姿を見取り，共有していくことができるようになった。また，放課後の職員室では「今日の授業で〇〇さんが，こんな考えをノートに書いていたよ」「子どもたちがこんなことを試したいと言っているのですが，どうやったらできますか」など，その日の授業で見られた子どもの具体的な姿を基に，授業について語り合う様子が日常的に見られるようになってきている。

３　校内研修の実際

「チーム三河台」として，全教員が「共有・協働・共感」し合う雰囲気を作っていくために研修主任として取り組んだことについて，次の３つの視点で紹介する。

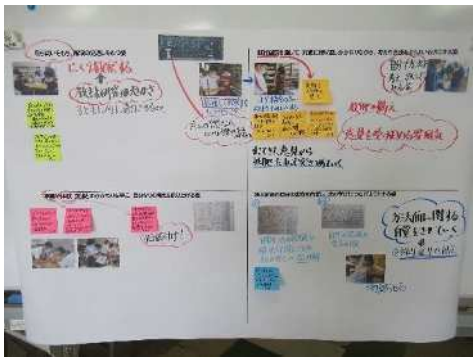
◎ 求める子どもの姿の共有
◎ チームで考え，創り上げる研究方法の工夫
◎ 「研修が愉しい」と感じることができる雰囲気づくり

【求める子どもの姿の共有】

〈目指す子どもの姿を話し合う教員〉

目指す方向性を明らかにする

本校の研究主題を立ち上げる際，まず研究の方向性を検討していくワークショップから始めた。低学年，中学年，高学年のブロックに分かれ，理科・生活科の授業場面における「学びを構築する子ども」の姿を，理科・生活科で育成する資質・能力を基にイメージをして付箋紙に書き出し，分類した。そして，分類した中からキーワードを挙げ，それらを基に上述した本研究で求める具体的な４つの子どもの姿を設定した。そうすることにより，教員が共通のまなざしで子どもを見取ることができるようになり，共通言語を基に授業について語り合うことができるようになっていった。



〈ワークショップで作成した模造紙〉

毎学期の振り返りと次学期に向けた見通しの共有

毎学期末に，全教員で設定した本研究で求める具体的な４つの子どもの姿と，授業で見られた子どもの姿を関連付けるワークショップを行った。各学年ブロックでは，授業で見られた子どもの姿を付箋紙に書き出したり，撮影した写真を出し合ったりして，４つの子どもの姿に分類した。このことにより，子どもの固有名詞を挙げながら協議を行うことができ，各学級の子どもの育ちについて共有しやすくなった。また，本研究で目指す子どもの姿のイメージがより明確になり，その後の授業実践で大切にしたいことや具体的な取組についての共通理解を図ることができた。

【チームで考え，創り上げる研究方法の工夫】

「自分事」として提案授業に関わることができる事前研究会

本校では，各学年ブロックで１回ずつ提案授業を行っている。その際，１か月ほど前に事前研究会を開催している。授業者は指導案を作成せず，構想途中の単元のイメージや本時の学習過程を基に協議をしている。そうすることで，教員一人一人が自分事として提案授業に関わろうとする意識がもてるようになった。また，多様なアイデアを気兼ねなく出し合い，教員同士が協働して授業づくりに取り組む雰囲気が醸成された。

〈教材を囲んでアイデアを出し合う教員〉

教員一人一人に学びがある事後研究会

【自分の考えを深めることができるグループ協議】

提案授業を参観した後の事後研究会では，グループ協議を２回設定している。１回目は「教員経験年数別グループ」で協議し，２回目は「ランダムグループ」で協議している。「教員経験年数別グループ」では，経験年数に応じた気付きや自己の課題を基に協議をすることができた。また，若手教員は，授業を参観して感じたことや考えたことを，同世代の教員と共有できることで，安心して協議に参加する姿が見られた。「ランダムグループ」では，１回目で協議したことを持ち寄って協議を行った。若手の先生も，自分が考えたことやグループで話題に挙がったことをベテランの教員に自信をもって伝える姿が見られた。

【授業者が授業についての学びを言語化する場の設定】

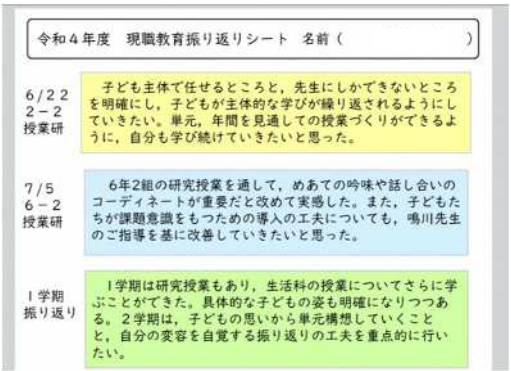
授業者は，各グループを回り，協議に参加する中で，授業で見られた子どもの姿を教えてもらったり，授業場面における質問に答えたりするようにした。そうすることで，授業者自身にたくさんの気付きや学びが生まれるようになった。事後研究会の最後には，授業者から振り返りを発表する場を設定した。それにより，協議内容を基に，授業における働きかけを省察したり，次時に向けての授業改善の視点を語ったりする姿が見られた。

【参観者が授業についての学びを言語化する場の設定】

事後研究会終了後，振り返りシートを配付し，参観した教員一人一人に振り返りを記述する場を設定した。記述の視点として，「提案授業から学んだこと」と「自分の授業にどう生かすか」を提示した。そうすることで，参観者一人一人の研究に対する考えが整理され，次の授業への意欲につながっていった。

〈自分の考えを伝える若手教員〉

〈各グループを回り，協議を傾聴する授業者〉



令和４年度　現職教育振り返りシート　名前（　　）

6/22 2－2 授業研	子ども主体で任せるところと，先生にしかできないところを明確にし，子どもが主体的な学びが繰り返されるようにしていきたい。単元，年間を見通しての授業づくりができるように，自分も学び続けていきたいと思った。
7/5 6－2 授業研	6年2組の研究授業を通して，めあての吟味や話し合いのコーディネートが重要だと改めて実感した。また，子どもたちが課題意識をもつための導入の工夫についても，鳴川先生のご指導を基に改善していきたいと思った。
1学期 振り返り	1学期は研究授業もあり，生活科の授業についてさらに学ぶことができた。具体的な子どもの姿も明確になりつつある。2学期は，子どもの思いから単元構想していくことと，自分の変容を自覚する振り返りの工夫を重点的に行いたい。

〈研修を通して学んだことの累積〉

【「研修が愉しい」と感じることができる雰囲気づくり】

〈初任者の悩みを受け止めるベテラン教員〉

同僚の気付きや悩みを表出できる環境の整備

放課後の職員室において，本校は笑い声が絶えない。それは，研修主任を中心として，互いの気付きや悩みを受け止め，共感する雰囲気を醸成しているからであると考える。普段の授業で見られた子どもの姿について，同僚の教員に伝えると「その子どもは，こういう力を発揮できたんだね。〇〇先生のクラスの子どもたち，育っているね」と価値付けてもらえる。また授業や学級経営での悩みを相談すれば，その教員の失敗談やそこから得た学びなどを教えてくれる。このように，教員同士が互いのことを受け止め合える雰囲気ができていることで，研修の場だけでなく，日常的に授業づくりに対する意欲が高まるきっかけが生まれている。

〈本気になってボッチャに取り組む教職員〉

〈メダルをもって記念撮影〉

同僚性を高める「六華パラスポーツ大会」

令和４年度から，教職員間の同僚性を高めることを目的として，毎年夏休みに開催する研修全体会の後に，「六華パラスポーツ大会」を実施している。管理職，学級担任，養護教諭，事務職員，調理員，用務員のすべての教職員を４つのチームに分け，ボッチャやカローリングなどのパラスポーツを行っている。研修部が中心となってメダルも製作している。

どの教職員も本気になって取り組み，白熱した戦いが毎年繰り広げられている。一人一人のプレーにみんなで一喜一憂したり，よいプレーがあったらみんなでハイタッチしたりする教職員の姿がたくさん見られる。このイベントを行うことで，教職員の間に助けを求めやすい関係性や風通しのよい雰囲気が醸成されていく。これは，校内研修の推進はもちろんのこと，校務運営にもよい影響があり，みんなで学校を運営していこうという意識の高まりも感じることができる。

４　成果と課題（○：成果　●：課題）

【求める子どもの姿の共有について】

○　求める子どもの姿を基に，授業や学級・学年経営の話をする教員の姿が増えていった。同じまなざしで子どもを見取り，語り合える雰囲気が醸成されていったことは全教員が同じ方向を見て，校内研修ができている表れであると考える。

●　初めに設定した求める子どもの姿での校内研修が続いているため，これまで見られた子どもの姿やさらに求めていきたい子どもの姿を出し合い，今の目の前の子どもの姿に応じて修正・改善していくことを今後行っていきたい。

【チームで考え，創り上げる研究方法の工夫】

○　事前研究会を授業日のおよそ１か月前に設定したことで，授業者だけでなく全教員が授業構想段階から関わることができ，自分事として授業づくりに参加する姿が見られた。

○　事後研究会では，子どもの固有名詞を出し合いながら，どのような学びがあったかを様々なグループで協議できるようにしたことで，どの教員も自分の気付きや考えを表出することができた。

○　授業者が各グループ協議に参加して，質問を受けたり，授業における意図を伝えたりすることで，授業者自身が授業を見つめるよい機会になった。ある授業研究会で，授業者が「授業をやってよかったです！またやりたいです」と言う姿もあり，学びが多い研究サイクルになっていると考える。

●　事前研究会や事後研究会で協議したことを，教員間で共有することが不十分であるため，模造紙やＩＣＴ機器を活用した情報共有の在り方を模索していきたい。

【「研修が愉しい」と感じることができる雰囲気づくり】

○「六華パラスポーツ大会」を開催することで，教職員全員の同僚性が高まり，校内研修や学校運営によい影響をもたらすことができた。何より，教職員同士が笑顔で愉しそうに取り組む温かい姿は子どもの育ちにとっても良い影響を与えていると考える。

●　教職員それぞれの個性を生かすことができる場を設定し，互いを知る機会も模索していきたい。